

# TOPICS

特集2

## 130周年記念事業

お茶の水女子大学創立130周年記念事業から  
3つのシンポジウムをご紹介します。

### シンポジウム1

#### お茶の水女子大学生活科学部のゆくえ—家政学から生活科学へ

小谷 眞男 生活科学部

10月29日、生活科学部・生活社会科学研究会共催によるシンポジウムが開かれました。上村協子氏（東京家政学院大学助教授、本学卒業生）は、お茶大の原点、東京女子師範学校創設から戦後の家政学部設立までの経緯を、松平友子という家政学者に焦点をあてながら綿密な史料検証によって再構成しました。本田和子氏（本学前学長）は、当時の家政学部長として生活科学部への改組事情を振り返り、「全地球的連帯」を目指す研究の開拓など、生活科学の意義と課題を整理しました。中島利誠氏（本学名誉教授）は、生活科学を「物質と心が交わる領域」と位置付け、「着心地」など様々な研究テーマの可能性を示しました。

以上の報告を受けてフロアからも発言が相次ぎ、本学の牧野カツコ氏の司会のもとで生活科学の現代的意義をめぐる活発な意見交換が行われました。当日の参加者は75名。HPを見て来たという高校生が「生活科学という学問の原点や位置付けがわかった」という感想を寄せたことも特筆しておきたいと思います。



フロアから質問する湯沢氏（本学名誉教授）とシンポジストの上村氏、中島氏、本田氏

### シンポジウム2

#### 女子高等教育の歴史と課題—お茶大・奈良女の比較と社会的位置づけ

米田 俊彦 文教育学部

科学研究費補助金による研究の一環として、本学の国立女子大学としての歩みを奈良女子大学と比較しながら捉えるという趣旨で、11月12日、20名ほどの参加者を得てシンポジウムを開催しました。奈良女子大学の小路田泰直氏と筆者が報告を行い、早稲田大学の湯川次義氏と本学の小風秀雅氏にコメントをいただきました。本学の館かおる氏の司会で、フロアからも多くの意見が出されました。

小路田氏によれば、創立の時期との関係や、高等女学校教員の養成に傾斜したことで、奈良女高師は主婦（良妻賢母）養成の性格をもっているとのことでした。制度的には同じにできているはずの東京女高師の歴史を見ても、実際にお茶大に勤務していても、本学にそういう性格が埋め込まれていると感じ

たことはありません。遠慮なく高度な学問をやってきたのではないのでしょうか。本学の社会的な性格や位置づけを知るひとつの手がかりを得たことが筆者にとって収穫でした。



左から小風氏、筆者、小路田氏、湯川氏と司会の館氏

11月19日、徽音堂に約250名の参加者が集い、「飛天の夢—その思想と科学」が開催されました。本企画は、石黒節子氏（人間文化研究科:舞踊）のプロデュースにより、上昇下降を繰り返す航空機内で発生する微小重力状態の中で、「飛天の舞」（天女が空中を飛行する）を行うという壮大な実験であり、これが実現するまでの記録映像と、舞踊実演が展開されました。微小重力環境を利用した実験が科学技術研究である中、本企画は、文化芸術分野であることから、世界的に注目を集め、本年12月のピエール・カルダン劇場（パリ）における世界初公開に先がけて、本学130周年事業として急遽実現したものです。

引き続き、文系・理系、異なる立場から、頼住光子氏（文教育学部）、黒谷明美氏（宇宙航空研究機構宇宙科学研究本部:本学卒）、古賀一男氏（名古屋大学環境医学研究所）による講演の後、3人の講師に石黒氏を加え、さらに航空機実験体験者の学

生も交え、刺激的なシンポジウムが繰り広げられました。知的興奮のさめやらぬ、豊かな秋のひと時でした。



## 事業内容

## お茶の水女子大学創立130周年記念 その他の事業紹介

本学では創立130周年を記念し、「伝統と未来をつなぐお茶の水女子大学」というテーマで、10月から12月にかけて、数多くの事業を展開しました。大学・学部等の主催では、4つの記念シンポジウムや映画「博士の愛した数式」上映会が行われました。さらに附属学校園と大学が一体になって、記念音楽会やキャンパス植物園事業を行いました。また、文京区・文京区教育委員会との共催で、記念科学月間を催し、科学実験教室や講演会などを開きました。

11月22日には多くのご来賓ご出席のもと、創立130周年記念式典が開催されました。式典に引き続き、神田道子氏（国立女性教育会館理事長）へ名誉博士称号が授与され、神田氏による特別講演「男女共同参画社会の形成と女性教育」がありました。

3つの記念シンポジウムは本号でご紹介しましたが、神田道子氏の名誉博士称号授与式等、その他の事業については次号で詳しくご報告します。

（文責：編集委員会）

